

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	琉球大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	リュウキウダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	九州地方
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	建築現業実習1
	学部・研究科等名	環境建設工学科建築コース
	担当教職員名・役職	堤純一郎・学科長、入江徹・学年担当教員、金城春野・学年担当教員
受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	22	
受入企業等数	12	
受入企業等名	島田陽建築設計事務所、株式会社SUEP、アースティック那覇設計、沖縄県庁施設建築課、株式会社みらいホーム、那覇市まちなみ整備課、那覇市公園管理課、宜野湾市都市計画課、沖縄市区画整理課、横浜市都市整備局企画部、LSD design株式会社、株式会社SWITCH	
インターンシップの分類	5.他県をまたぐ広域インターンシップ 10. 地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	現業実習という科目は1と2の2科目あり、1では主に夏休み期間等を利用して、受け入れ先企業等において、就業体験するもの。期間は約2週間程度を想定している。受け入れ先企業等から受け入れの案内があり、それに応募するケースもあるが、学生が独自に開拓することも認めている。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	3年次を対処とした科目であり、建築現業実習1が約2週間の就業体験で2単位、建築現業実習2が1週間で1単位となっている。どちらも選択科目で、主として夏休み期間を対象として受講するが、建築現業実習2を受講する学生は非常に少ない。	
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	特に定められた方法でのモニタリングはないが、適宜、企業等からの報告を受けている。	

	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	受け入れ先の企業等について、事前に学生が自主的に照査するように促している。また、インターンシップの具体的な内容についても、事前に企業等と打ち合わせするように指導している。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップによって得られた成果を学生自身がまとめて自己研鑽となるように指導している。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	上述の通り、特定の形式はなく、随時必要に応じて実施している。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	4.その他
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	特に、固定的な具体的な教育的効果の確認は実施していない。
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	特に、固定的な具体的な教育的効果の確認は実施していない。随時、学生との面談等において、口頭で報告を受けている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間10日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	定休日等を含めて2週間程度の期間を基本としており、実働10日間程度となる。この期間を連続して就業体験することで、インターンシップとしている。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	主として、大学が企業等に依頼する形で学生の評価を行っている。義務ではないが、企業等の担当者から学生に関するレポートをお送りいただくこともある。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	http://rais.std.u-ryukyu.ac.jp/dc/
問い合わせ先	大学等名	琉球大学
	担当部署名	工学部
	担当者役職名	教授
	担当者氏名	堤純一郎
	電話番号	098-895-8655
	メールアドレス	jzutsumi@tec.u-ryukyu.ac.jp